ミクニスリングシート
取 扱 説 明 書

株式会社 ミクニ

ごあいさつ

このたびは、「ミクニスリングシート」をご購入いただき、大変ありがとうございます。
この「ミクニスリングシート」は、車椅子、ベッドなどから介護リフトを利用して入浴または移動などをする際に、楽に使用できるように工夫した吊り具です。
この説明書をよくお読みになり、正しく安全にご使用くださるよう、お願い申し上げます。
お読みになったあとは、大切に保管してください。
なお、この「ミクニスリングシート」のさまざまな状況に応じた使い方については、専門の方にご相談されることをお勧め申し上げます。

目　次

1. 仕様……3
2. スリングシートの種類と特徴……4
3. 各部の名称……5
4. 姿勢調節……6
5. スリングシートの使い方……8
6. 車椅子へ深く着座する方法……19
7. 使用上の注意……20
8. 最後に……20

安全上の注意

ここに示した注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのもので、「警告」「注意」の２つに分けてお知らせしています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

警 告：取扱いを誤ると、死亡または重傷などを負う可能性が想定される内容を示します。

注 意：取扱いを誤ると、障害または物的損害が発生する可能性が想定される内容を示します。

警 告：ストラップをリフトのハンガーに正しく掛けてください。
スリングシートが外れた場合、重大な事故につながる恐れがあります。

警 告：シート地、ストラップの糸がほつれたり布地がやぶれてきた場合は使用をやめてください。
重大な事故につながる恐れがあります。

警 告：シート生地に酸性やアルカリ性の洗剤、漂白剤を掛けたり、火気に近づけないでください。
シート生地が破れ、重大な事故につながる場合があります。

警 告：リフトでスリングシートを吊り上げたまま、ストラップの調整や脱着は行わないでください。
重大な事故につながる恐れがあります。

注 意：リフトで吊った状態で体を洗うときは、特に注意して行ってください。
重大な事故につながる恐れがあります。

注 意：ストラップの長さを正しく調整してお使いください。
正しく調整されていないと浴槽の縁などに接触する場合があります。

注 意：スリングシートをシャワーチェア、いすなどに降ろす際は、いす等の安定に注意してください。
負傷する恐れがあります。

注 意：スリングシートを小さく折り畳む際には、背もたれの芯材を抜き取ってください。
抜き取らずに折り畳んだ場合、芯材が損傷し、使用できなくなる恐れがあります。（脚分離型ハイバック４点式のみ）

1．仕様

材料	• メッシュタイプのスリングシート	シート …… ナイロン　抗菌消臭加工		
		ストラップ …… ナイロン　抗菌消臭加工		
	• マイティスリング	シート …… ナイロン　抗菌消臭加工		
		ストラップ …… ナイロン　抗菌消臭加工		
		シート強度材 …… ポリエチレン		
	• ハイバック４点式スリングシート	シート …… ナイロン		
		ストラップ …… ナイロン		
		シート強度材 …… ポリエチレン		
		芯材 …… ポリプロピレン		
	• 脚分離ローバックスリングシート	シート …… ナイロン		
	• ２点ベルト	ストラップ …… ナイロン		
		シート強度材 …… ポリエチレン		
重量	• 脚分離型ローバック	0.6kg	• 脚分離型ローバックメッシュ	0.5kg
	• 脚分離型ハイバック６点式	0.6kg	• 脚分離型ハイバック４点式	0.7kg
	• シートタイプ	0.5kg	• マイティスリング	0.7kg
	• ２点ベルト	0.6kg		
吊り重量		100kg		
形状		『3. 各部の名称』を参照		

2. スリングシートの種類と特徴

全体的な特徴

① 床走行型、天井走行型、据え置き型、設置型などのリフトに使用することができます。

② メッシュタイプのスリングシートは、水切れもよく抗菌消臭加工が施されているので、入浴時の使用に適しています。

③ ストラップ部の長さの調節には、はしご型を採用しており、調整が可能です。

タイプ別の特徴

脚分離型ローバック
車椅子からベッド等の移乗などや入浴、トイレなどで幅広く使えます。
腰を持ち上げることなく楽に装着、着脱ができる構造です。適応範囲が広く、比較的多くの方に利用できます。頭を支える必要がない方のための吊り具です。
入浴時にはメッシュタイプをお勧めいたします。

脚分離型ハイバック６点式
ローバックと同一の機能を持ち、さらに体全体を包み込み、頭部を支えることができるため、頭を固定できない方にも使用できます。

脚分離型ハイバック４点式
ベッドなどに仰向けに寝た状態で装着し、頭部を介助者が支えることなく安全に吊り上げることが可能です。

シートタイプ
体全体を包み込むため、吊られたときの安定感があり、腰部の不安定な方、臀部の特に小さい方、関節にあまり負担をかけられない方にも使用できます。

マイティスリング
肩甲骨で力を受け、吊り具全体で体重を支える構造のため、吊られたときの不快感もなく、体幹も安定して吊り上げることができます。お尻の部分が広く開いていますので、特にトイレ用の吊り具として適しています。

２点ベルト
装着の手間がかからない吊り具ですが、吊り下げされたときに肩甲骨に負担がかかり身体機能によっては落下する可能性があります。
脚ベルト、胴体ベルトともクッション入りサポートを採用したため、しわがよらず簡単に装着でき、胴体ベルトには体幹保持ベルトを付属させています。

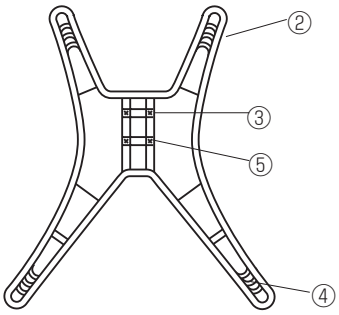
サイズ

シートタイプと２点ベルト以外のスリングには身長を基準としたサイズがあります。

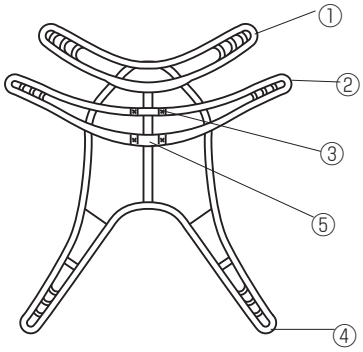
S=155cm まで　　M=155cm 以上　　あくまでも目安です。

3．各部の名称

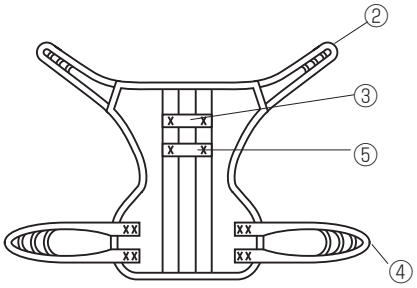
脚分離型ローバック



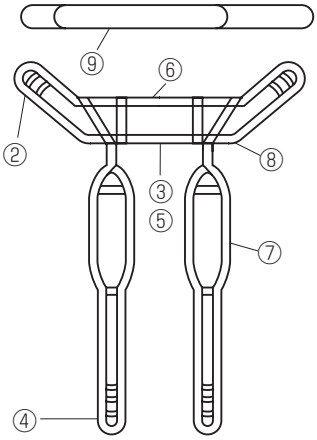
脚分離型ハイバック６点式



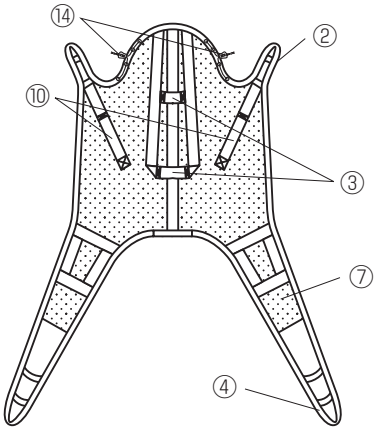
シートタイプ



マイティスリング

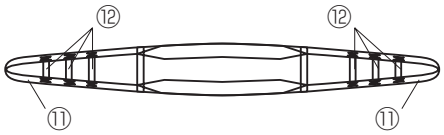


脚分離型ハイバック４点式

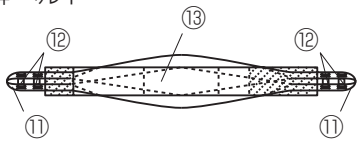


２点ベルト

脚ベルト



胴体ベルト

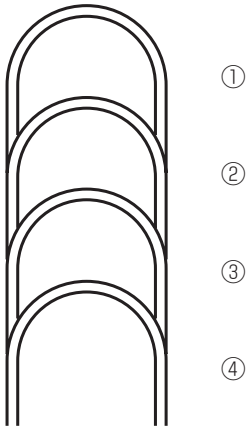


① 頭部ストラップ
② 肩部ストラップ
③ 介助バンド
④ 脚部ストラップ
⑤ 名称・種別マーク
⑥ 背面サポート
⑦ 大腿部サポート
⑧ ベルト通し
⑨ ベルト
⑩ サイドグリップ
⑪ ストラップ
⑫ サブストラップ
⑬ 体幹保持ベルト
⑭ ヘッドサポートアジャスター

4. 姿勢調節

ストラップの調節

吊り上げたときの姿勢は、肩部、および脚部ストラップの吊り下げ位置を変えることにより調節します。
肩部、脚部、頭部ストラップ共４段階に調節することができます。

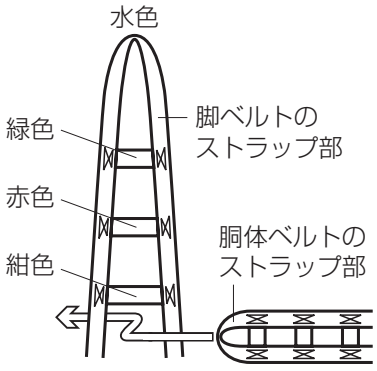


- 頭部および肩部のストラップの吊り下げ部を１から４番に変えていくと、姿勢は立っていきます。脚部ストラップの吊り下げ部を１から４番に変えていくと姿勢は寝ていきます。
- すべてのストラップを同時に、一段ずつ１から４番に変えていくと、姿勢は変わらずにハンガーに頭が近づいていきます。
- リフトの使用状況、本人の身体の状況により調整し正しく、楽な姿勢に調節してください。
- マイティスリングの肩部ストラップ、ハイバック４点式の脚部ストラップは３段階､ハイバック４点式の肩部ストラップは２段階の調整になります。

２点ベルトの調節

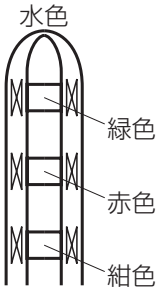
吊り上げたときの姿勢は、胴体ベルト側ストラップ、脚ベルト側ストラップの吊り下げ位置を変えたり、交差させる位置を変えることにより調節します。

脚ベルト側ストラップの交差の位置



- 脚ベルト側のストラップには、緑、赤、紺色の３つのサブストラップが付いています。
- 緑色サブストラップは、ハンガーフックに掛けて長さ調整を行うために使用します。
- 赤、紺色サブストラップは、左図のように胴体ベルトをくぐらせる（交差させる）ことに使用し、傾きの調整を行います。
- 通常は、紺色サブストラップの下側に胴体ベルトのストラップをくぐらせて使用しますが、より寝た吊り姿勢で使用する場合、赤色サブストラップの下側に胴体ベルトのストラップをくぐらせて使用します。

胴体ベルト側ストラップ

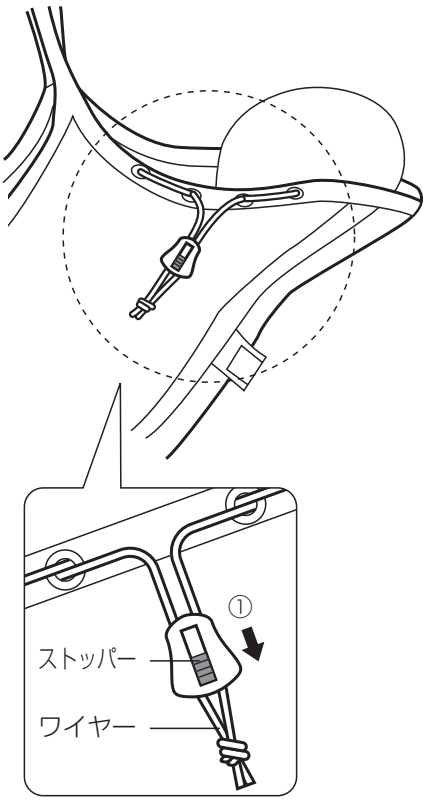


- 胴体ベルト側ストラップを水色→緑色、同様に脚ベルト側ストラップを水色→緑色と両方のストラップを、同時に１段変えた場合、吊り姿勢は変わらずにハンガーに頭が近づいていきます。
- 胴体ベルト側ストラップの掛ける位置を、水色→緑色→赤色→紺色と下げていくと、より起き上がった吊り姿勢に調整することができます。

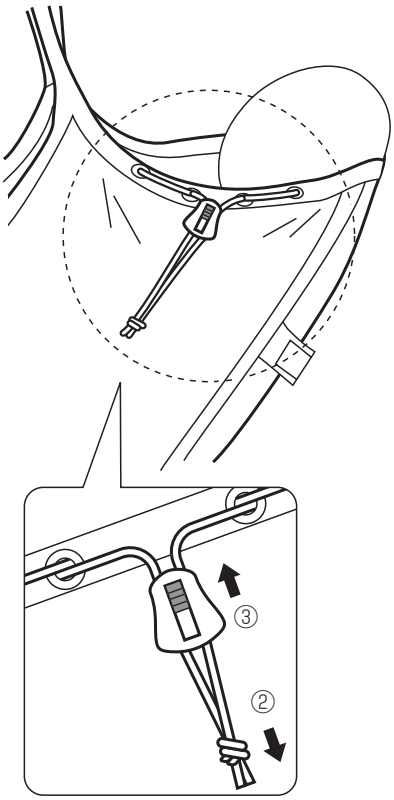
※　リフトの使用状況、ご本人の身体の状況により、適した吊り姿勢を保てるように正しく調節してください。

ヘッドサポートアジャスターの調節（脚分離型ハイバック４点式）

脚分離型ハイバック４点式は、ヘッドサポートアジャスターを使用することにより吊り上げたときのヘッドサポート部の張り具合を調節します。



① ストッパーを下げ、ロックを解除します。



② ワイヤーを引っ張り、適切な張り具合に調節します。

③ ストッパーを上げ、しっかりとロックします。

※ ワイヤーを引いていくと、頭部の姿勢は立っていきます。
ワイヤーを緩めていくと、頭部の姿勢は寝ていきます。

※ リフトの使用状況、本人の身体の状況により調整し正しく楽な姿勢に調節してください。

5. スリングシートの使い方

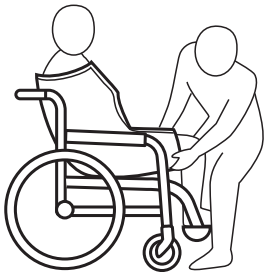
A. 脚分離タイプ

(1) 車椅子での装着

① シートの裏表（名称マークが外側）、上下（肩部ストラップが上）を確認し、身体を前かがみにさせて、シートの中央が背中の真ん中にくるようにしながら、座面のできるだけ奥まで差し込み、端がおしりの割れ目あたりにくるようにします。

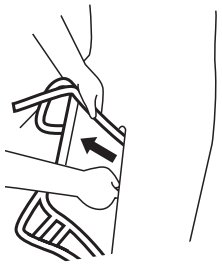
② 脚部ストラップ側をねじれのないように注意しながら、おしりを横から押さえて身体の腰部から両側にまわし、大腿まで持ってきます。

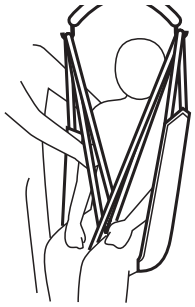
③ 大腿まで持ってきた脚部ストラップを前方に軽く引きます。



④ 脚部ストラップ側のシワ、弛みを伸ばしながら、大腿の下側を通します（先端を前方に軽く引くと密着します）。そして、片側のストラップ部分を身体の前でもう片側のストラップに潜らせて、交差させます。

※ストラップ横に付いている色別テープに注意して、同じ色のストラップを同じ側のハンガーフックに掛けてください。

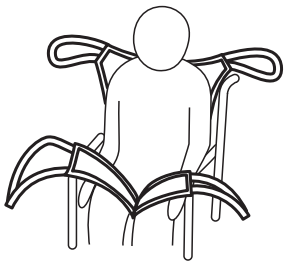




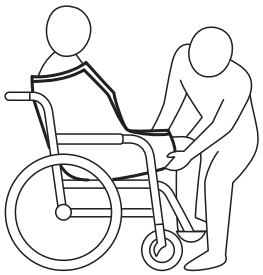
⑤ 脚部ストラップ、肩部ストラップ（ハイバックの場合は頭部ストラップも）をリフトのハンガーに掛けます。

これで完了です。

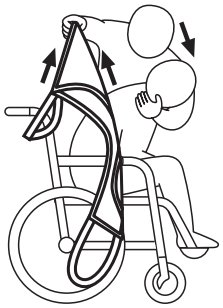
(2) 車椅子での着脱



① ハンガーをストラップが外せる高さまで下げ、すべてのストラップを外します。



② 大腿を持ち上げ、脚部ストラップをひとつずつ身体の両側にまわします。



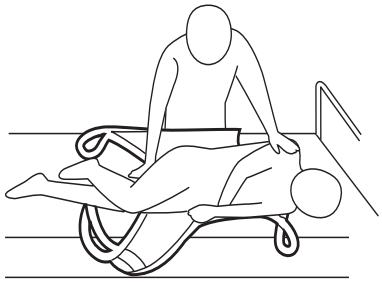
③ 脚部ストラップが外れたら上半身を支え、前かがみにさせ、シートを上方に引き上げれば外れます。

※ 入浴に使用した際には、車椅子に移動させる前に浴室にてシートをタオルで軽くふき取れば、水のしたたり等も減り、室内を濡らすこともありません。

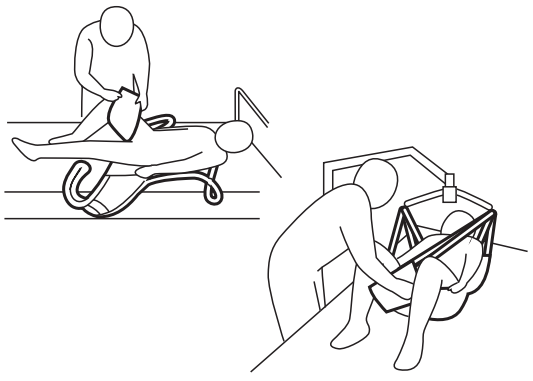
(3) ベッド上での装着

イ. ギャジベッドの背を上げて、スリングシートを装着する場合　車椅子の場合と同一

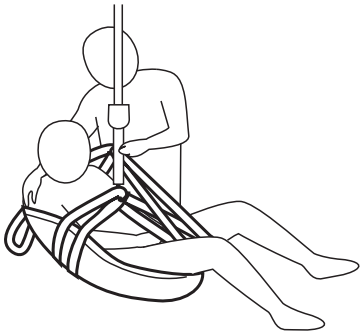
ロ. ベッドの背を上げず、寝たままで装着する場合



① 横向きにし、スリングシートをシーツの交換と同様に身体の下に敷き込みます。その際、スリングシートの中心は背中の真ん中にくるようにし、下端はおしりの割れ目あたりにくるようにします。左右交互に体を回転させながら敷き込んでいきます。



② スリングシートの脚部ストラップをできるだけ、おしりが覆われるようにして、大腿の下側を通し、交差させます。

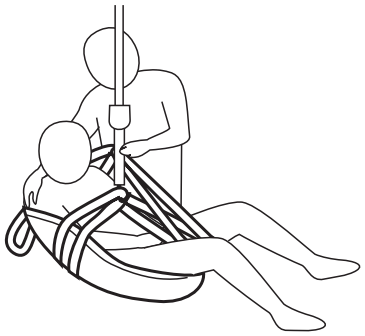


③ リフトのハンガーにストラップを掛けます。ストラップ横に付いている色別テープに注意して同じ色のストラップを同じ側のハンガーフックに掛けてください。

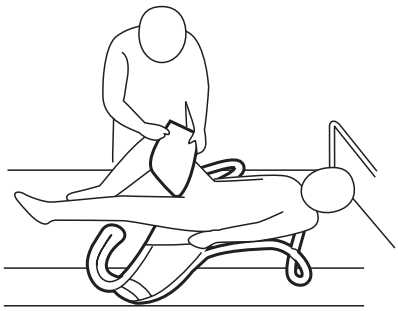
（4） ベッド上での着脱

イ． ギャジベッドの背を上げて、スリングシートを着脱する場合　車椅子の場合と同一

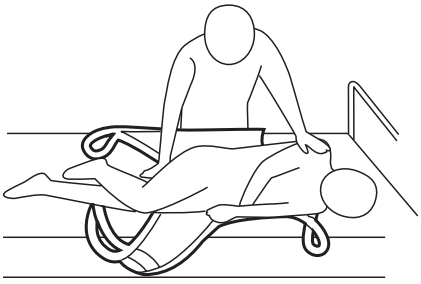
ロ． ベッドの背を上げず、寝たままで着脱する場合



① ハンガーをストラップが外せる高さまで下げ、すべてのストラップを外します。



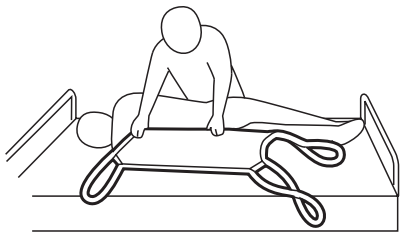
② 大腿を持ち上げ、脚部ストラップを引きつつ身体の外側にまわします。



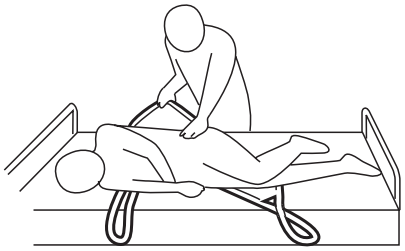
③ 横向きにし、スリングシートを左右交互に体を回転させながら抜き取っていきます。

B. シートタイプ

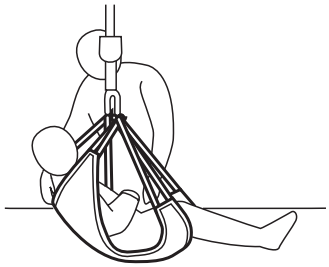
(1) ベッド上での装着



① 横向きにし、スリングシートをシーツの交換と同様に身体の下に敷き込みます。
その際、スリングシートの中心は背中の真ん中にくるようにし、上端は肩、下端は膝の裏側にくるようにします。

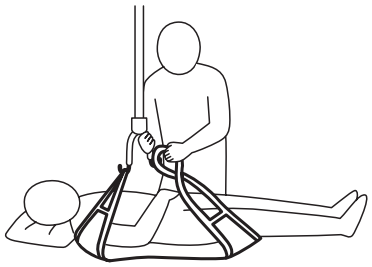


② 身体を上向きにして、リフトのハンガーにスリングシートのストラップを掛け、スリングシートの位置がずれないように注意して吊り上げます。

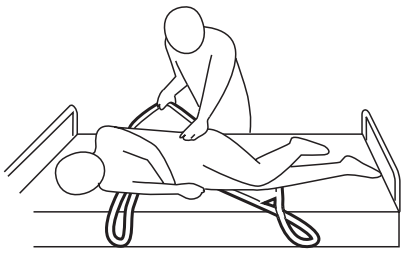


ストラップ横に付いている色別テープに注意して、同じ色のストラップと同じ側のハンガーフックに掛けてください。

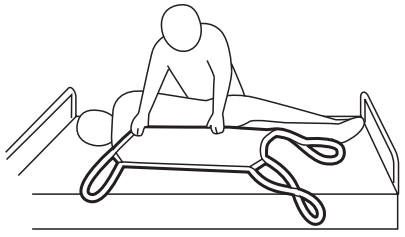
(2) ベッド上での着脱



① ハンガーをストラップが外せる高さまで下げ、すべてのストラップを外します。



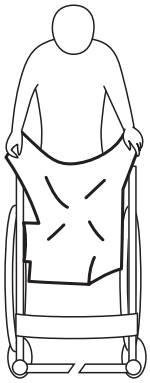
② 横向きにして、スリングシートを左右交互に体を回転させながら抜き取っていきます。



（3） 車椅子での装着、着脱

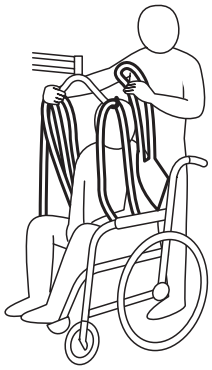
脚分離タイプとは異なりシートタイプの場合は、車椅子上で敷き込んだまま使用することになります。ここでは、車椅子を使用し、浴室に取り付けられた、介護用リフトへの移動方法を説明します。

イ． 入浴へ



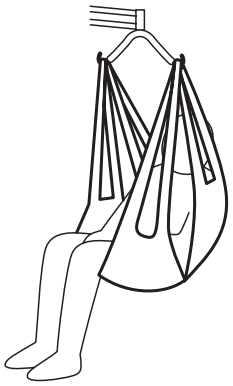
① 車椅子にスリングシートをあらかじめ敷いておきます。

② シートを敷いた車椅子に使用者を乗せます（抱きかかえるか、ベッド用リフトを用います）。この状態で脱衣場、あるいは浴室まで移動します。



③ リフトのハンガーをストラップがかけられる位置まで下ろし、すべてのストラップをハンガーのフックに掛けます。

※ ストラップ横に付いている色別テープに注意して、同じ色のストラップを同じ側のハンガーフックに掛けてください。

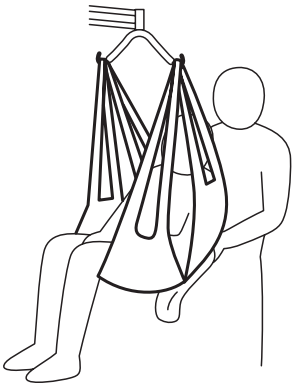


④ リフトを操作して、シートのシワ、使用者の姿勢に注意しながら、上昇させます。

⑤ 車椅子より使用者の体が離れたらリフトを使用し入浴に入ります。

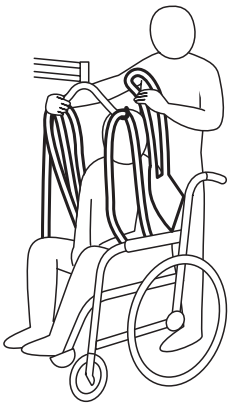
※ このシートは臀部に穴があいていないため、臀部を洗う場合には洗い場の床に降ろす必要があります。

ロ． 入浴から



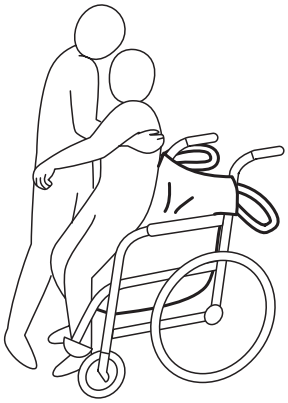
① 浴室内にて、身体、シートに付いた水分をタオルで軽くふき取ります。

② 車椅子にタオルを敷き、リフトを操作して車椅子上まで使用者を移動させます。



③ 車椅子に降ろし、さらにストラップが外れる位置までハンガーを下げ、すべてのストラップをハンガーのフックから外します。

④ この状態でベッドあるいは移動させたい場所まで移動させます。

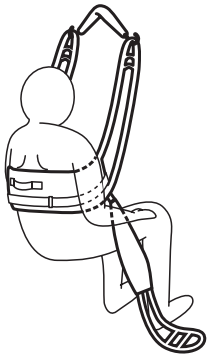


⑤ 使用者を移動させます（抱きかかえるか、ベッド用のリフトを用います）。

⑥ スリングシートを取ります。

C. マイティスリング

(1) 車椅子での装着および着脱

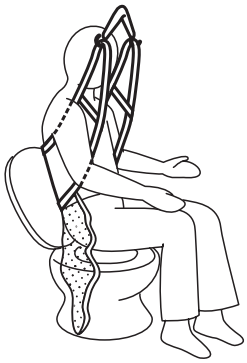


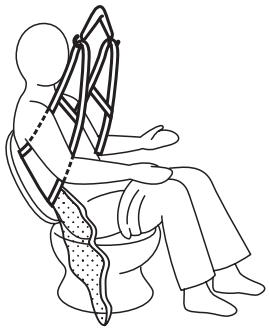
基本的に、A. 脚分離タイプと同様の装着方法です（P.8、P.9 参照）。ただし、背面サポートはサポートの上部が肩甲骨の下にくるように調整してください。

また、付属のベルトは、ベルト通し２カ所に通したあと、身体の前でしっかりと固定します。身体の状況により不要の場合は、あらかじめ外しておいてください。

※　イラストは見やすくするため、片側だけ描いてあります。

(2) トイレおよびポータブルトイレでの着脱





① リフトでトイレの座面に着座させます。

② リフトのハンガーから脚部ストラップを２つとも外し、背面サポートのみで腰が上がり、服を脱がせる状態まで吊り上げます。
このとき、足は床についたままの状態にしておき、足が床から離れる状態まで吊り上げてはいけません。

③ ズボン、下着等を下にずらしたあと、リフトを下ろし、再び着座させます。

着座させた状態で、体幹がどちらかへ傾く場合は、リフトで背面サポートを若干吊った状態にしておくと、体幹が保持されることがあります。

（3） トイレおよびポータブルトイレでの装着

① 背面サポートのみで腰を持ち上げ、服を着せる状態まで吊り上げます。
このとき、足は床についたままの状態にしておき、足が床から離れる状態まで吊り上げてはいけません。

② 下着、ズボン等を着せたあと、リフトを下ろし、再び着座させます。

③ 大腿部サポートを左右それぞれの大腿の下側を通し、脚部ストラップの片側を身体の前でもう片側のストラップに潜らせて、交差させます。そして、脚部ストラップをリフトのハンガーに掛けます。

トイレで使用する場合、車椅子、ベッド等で吊り具を装着させる際、あらかじめ、下着の中でスリングを装着させる方法もあります。

① 背面サポートは、通常と同様に装着し、大腿部サポートを下着の中に通し、いったん前に引き出します。

② そのまま、足を巻くように大腿の下から内側を通して上にまわして、下着の中を再度潜らせ、身体の前でストラップを交差させます。

③ ハンガーに肩部ストラップと脚部ストラップを掛けます。

④ トイレの座面まで移動させたところで下着を脱がせます。

⑤ トイレの座面に着座したあと、脚部ストラップをハンガーから外します。

⑥ 終了後、大腿部サポートを左右それぞれの大腿の下側を通し、脚部ストラップの片側を身体の前でもう片側のストラップに潜らせて、交差させ、脚部ストラップをリフトのハンガーに掛けます。

⑦ 下着をスリングの上から着ます。

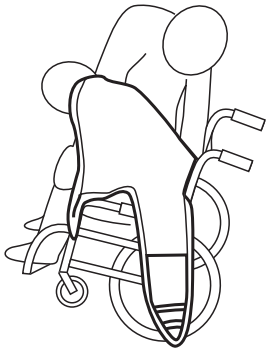
⑧ 車椅子、ベッドに降ろしたあと、スリングを抜き取ります。

（4） ベッドでの装着および着脱

基本的に A. 脚分離タイプと同様ですので、P.9　P.10 を参照してください。

D. ハイバック４点式

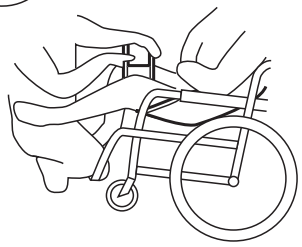
（1） 車椅子での装着



① シートの肩部ストラップの上あたりを持ち、脚部ストラップが下側になるように持ち上げます。
このとき、介助される人（以下、対象者と呼びます）に装着した場合に、介助バンドおよび、サイドグリップが、外側になるようにしてください。

② 対象者を前かがみにさせ、シート背もたれ部分の中央を対象者の背骨（背骨の真ん中）に合わせ、おしりの方へと差し込みます。
※ シート中央の一番下に差し込み用ポケットがありますので、ここに指を差し込み、座面に届くまで、十分に深く差し込みます。

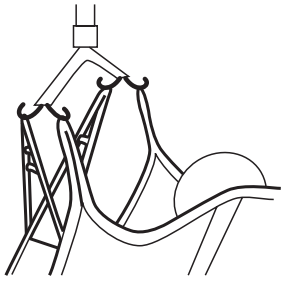
③ 両側に垂れ下がっている脚部ストラップ、大腿部サポートを対象者の両脚に添って引き出します。
このとき、引き出した左右の長さが、同じ長さになるように調整します。



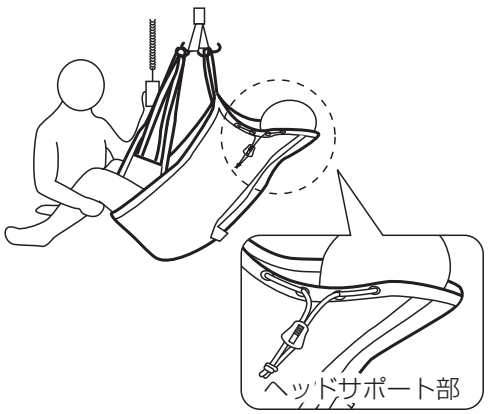
④ 対象者の脚を片側ずつ持ち上げ、大腿部の裏側に脚部ストラップ、大腿部サポートを潜らせます。そして、両脚の間から引き出します。
このとき、脚部ストラップ、大腿部サポートをねじらないように注意してください。

⑤ 両方の脚部ストラップを持ち上げ、同じ長さになっていることを確認します。

⑥ 一方の脚部ストラップをもう一方の脚部ストラップに通し、交差させます。

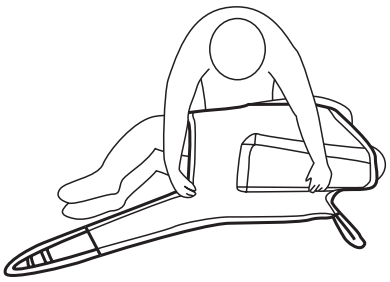


⑦ 肩部ストラップを、ハンガーフックの頭部側に掛け、脚部ストラップを脚部側に掛けます。
※ ストラップは頭部側に２段、脚部側に３段の調節ができます。
対象者の状態に合う高さに調節し、ハンガーフックに掛けてください（詳しくは『4. 姿勢の調節』をご覧ください）。



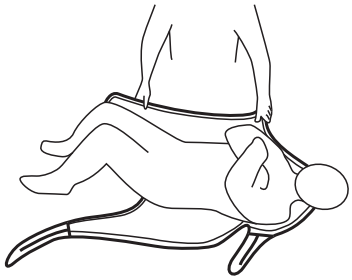
⑧ ハンガーフックに、すべてのストラップが確実に掛けられていることを確認し、吊り上げを行ってください。
※ ヘッドサポート部は 、アジャスター機能を使用することにより調節を行います。
対象者の状態に合わせて調節を行い 、ご使用ください（詳しくは『4. 姿勢の調節』をご覧ください）。

(2) 寝ている状態での装着



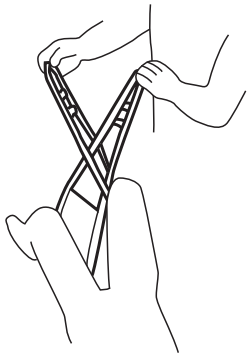
① 対象者を側臥位にします。

② 前項『(1) 車椅子での装着』と同様に、シートを対象者の背中中央に合わせ、ベッドと身体の間に軽く差し込みます。
このとき、シートは対象者の頭部まで覆うように合わせます。



③ 対象者を逆側の側臥位にし、背中とベッドの間から出ているシートの両端（頭部側と脚側の 2 カ所）を両手で持ち、引き出しながら広げます。

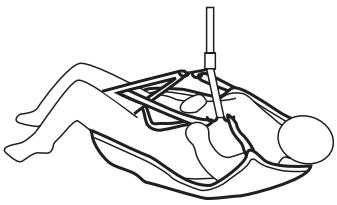
④ 対象者を仰向けに戻し、敷き込んだシートの中央に身体が位置するように調整します。



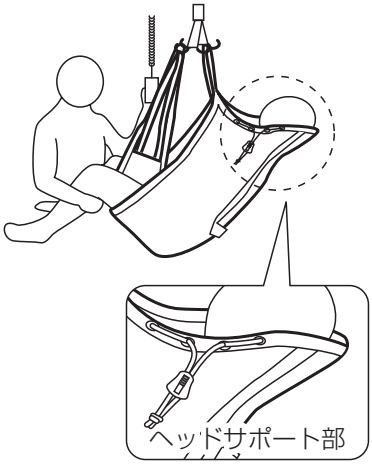
⑤ 大腿部をサポート、脚部ストラップを、それぞれ大腿部の下側に潜らせ、両脚の間から引き出します。

⑥ 両方の脚部ストラップを持ち上げ、ほぼ同じ長さになるように調整します。

⑦ 一方の脚部ストラップを、もう一方のストラップに通し、交差させます。



⑧ 前項『(1)車椅子での装着』の⑦と同様に、姿勢を調節して、頭部ストラップ、脚部ストラップのすべてをハンガーフックに掛けます。

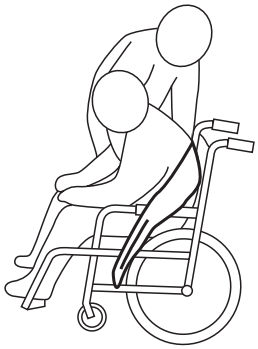


⑨ ハンガーフックにすべてのストラップが掛けられたことを確認したら、対象者の膝を立てた状態から、吊り上げを開始します。
シートが自然に頭部を包み込みながら上昇します。

※ 対象者の脚を伸ばしたままの状態で吊り上げると、股に負担が多くかかり、痛みを感じる原因となる場合があります。

※ ヘッドサポート部は 、アジャスター機能を使用することにより調節を行います。
対象者の状態に合わせて調節を行い 、ご使用ください（詳しくは『4. 姿勢の調節』をご覧ください)。

E　2点ベルト

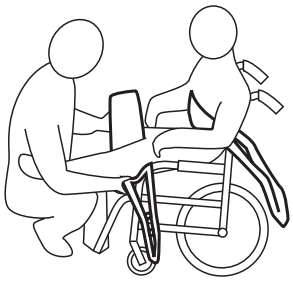


① 対象者を前かがみにさせます。

② 胴体ベルトの中央を、対象者の背中中央に合わせます。
このとき、体幹保持ベルトが取り付いている方を体（背中）にあたるようにしてください。

③ 胴体ベルトを、対象者の肩甲骨に少しかかる程度の高さに合わせて、左右のストラップを脇の下に通して、前方へ持ってきます。

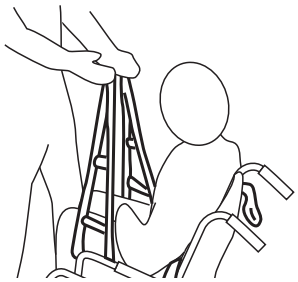
④ 対象者を背もたれに寄り掛かる姿勢に戻し、体幹保持ベルトを胸の前でセットします。



⑤ 胴体のベルトの、左右のストラップ長さが均等になっていることを確認します。

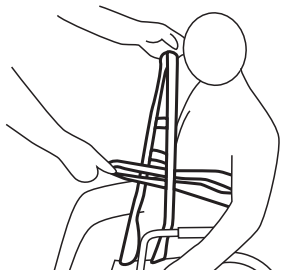
⑥ 対象者の脚を片側ずつ持ち上げ、大腿部の裏側に脚ベルトを潜らせます。

⑦ 脚ベルトの左右のストラップを持ち上げ、左右の長さが均等になるように調整します。

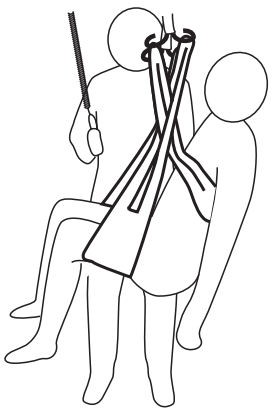


⑧ 脚ベルトの紺色サブストラップの下に、外側から胴体ベルトのストラップを通します。

※ 脚ベルトには、胴体ベルトのストラップを通すためのサブストラップが 2 カ所（赤、紺色）に取り付けられています。どちらかのサブストラップの下を通すことにより、吊り姿勢の傾き調節を行うことができます。対象者の状態に合う姿勢に調節してください（詳しくは『4. 姿勢の調節』をご覧ください）。



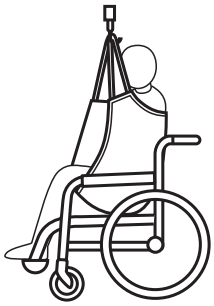
⑨ 胴体ベルトのストラップは、脚ベルト側のハンガーフックに掛け、脚ベルトのストラップは、頭部側のハンガーフックに掛けます（胴体ベルトと脚ベルトのストラップを交差させます）。



⑩ ハンガーフックにすべてのストラップが掛けられていることを確認し、ゆっくりと吊り上げを開始します。

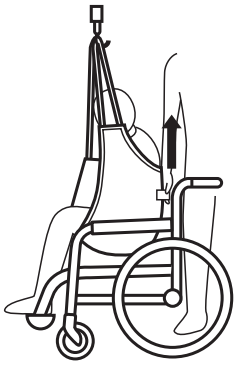
⑪ 対象者のお尻が浮き上がった状態で、いったん吊り上げを停止し、臀部がずれ込んでいないかを確認します。
問題のない姿勢であれば、続けて吊り上げを行ってください。

6. 車椅子へ深く着座する方法



① 体幹を立てた姿勢で吊る

体幹を可能な限り立てた姿勢で吊り、車椅子に座らせると、深く座ることができます。

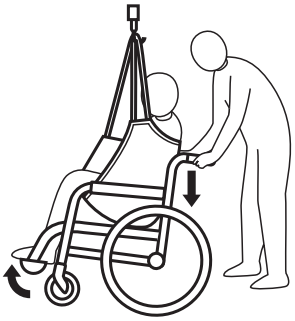


② スリングシートの介助バンドを引く

スリングシートの背に付いている介助バンドを上に持ち上げるように引きながら着座させます。

③ 膝を押しながら着座させる

介護される方の正面から、両手または片手で膝を下に押し下げるように押しながら降ろすと、深く座ることができます。



④ 車椅子のキャスターを上げる

車椅子のブレーキを解除しておき、リフトのスイッチを操作して下降させながら車椅子のキャスターを上げて、深く座らせます。

⑤ 車椅子をリクライニングさせる

リクライニング式の車椅子の場合、リクライニングしてから着座させると、深く座ることができます。

7. 使用上の注意

① ストラップがリフトのハンガーに正しく掛けられているかどうかを吊り上げる前に確認してください。

② 洗濯する場合には、中性洗剤を使用し、手洗いを行い、陰干しをしてください。

③ シート地がすり切れ掛かってきたときは、直ちに使用を取り止めてください。

8. 最後に

ご使用されていて何かご不明な点がございましたら、弊社または弊社代理店までお問い合わせください。

ミクニスリングシート　取扱説明書

OPM-1109（GHD）

発 行 者 株式会社 ミクニ

東京都千代田区外神田6丁目 13 番 11 号
ミクニビル

• 本マニュアルに記載してある仕様・デザイン等は、改良のため予告なく変更することがあります。
• 無断複製・転載はお断りいたします。

株式会社 ミクニ コンシューマ事業部　シニアプロダクツチーム

［東京］　〒 101-0021　東京都千代田区外神田 6-13-11　ミクニビル
TEL. 03（3833）9548　FAX. 03（3833）2819

［小田原］　〒 250-0055　神奈川県小田原市久野 2480
TEL. 0465（35）8431　FAX. 0465（35）9272